



第16回若手医師のための家庭医療学冬期セミナー

WS-08「リハビリテーション科医×プライマリケア医のコラボ企画 活動を診る！
ICF で考えるリハビリテーション」

【講師】

新谷 可恵（京都岡本記念病院リハビリテーション科）
相田万実子（亀田ファミリークリニック館山 家庭医診療科）
須田 万豊（慶應義塾大学医学部リハビリテーション医学教室）
松浦 広昂（藤田医科大学リハビリテーション医学Ⅰ講座）
原嶋 渉（伊勢原協同病院 リハビリテーション科）
望月 亮（聖隷袋井市民病院リハビリテーション科）
大野 洋平（国立病院機構東京病院リハビリテーション科）
成瀬 瞳（関西家庭医療学センター / 浅井東診療所）
天笠 愛子（川崎市立川崎病院 救急科）
森川 暢（市立奈良病院 総合診療科）

疾患は治癒したものの、嚥下障害で好物が食べられなくなる、歩行障害で趣味ができなくなるなどの活動制限によって生きがいをなくす患者さんを目にしたことはありませんか？

こうした事態を防ぐためには、活動制限について考慮した上で、リハを含めて包括的に治療方針を計画することが大切です。とはいえ、リハに関しては、具体的に何をどう評価して立案・実行すべきかわからず悩む方もいると思います。

患者さんの活動を軸に据えたリハを立案する上で、国際生活機能分類（ICF: **International Classification of Functioning**）は課題も指摘されていますが、有用です。

このワークショップでは、ICF を利用した評価・リハの目標設定・帰結予測・リハ処方について、実際の症例を題材にして学んでいきます。ICF を理解した上で、どのようにリハプランを立てるか、その先を教えます。

職種、携わるステージ（急性期、在宅、施設など）、経験年数は問わず誰でも歓迎です。リハに必要な考え方を一緒に学びましょう！